TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

# イエス・キリストの即位　油を注がれたイエス・キリスト

マタイによる福音書 26 章 1～16 節

2024 年 4 月 27 日 & 28 日
余沢 武　牧師

## はじめに

みなさん、こんにちは。今日からマタイによる福音書 26-28 章を読み、新しいシリーズ「イエス・キリストの即位」を始めます。
これは、2-3 年前に始めた、マタイによる福音書の最終シリーズになります。
今までみてきたことを振り返ります。

1. イエスは「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って宣教を始めました
2. イエスは荒野で 40 日に及ぶ、悪魔の試みを受けられた時、神の御国では
   ・人々は自分が欲しいもののためではなく、神が望まれるもののために生きる。
   ・この世の成功をおさめ、人からの評価や賞賛を得るためではなく、神に認められた生き方をする。
   ・お金を拠り所にして生きるのではなく、神を信頼して神の道に従って生きる。
3. そのような人となるには、「心の貧しい者」となり、神に助けを求めるしかありません。
4. イエスの変貌により、神はイエスが王なる救い主であり、神の御子であることを示しました。
5. 神の御国は謙虚でなければ入ることができないとイエスは教えました。自分を低くする者が神の御国では偉いのです。
6. 棕櫚(しゅろの)日曜日(復活祭直前の日曜日)にイエスはエルサレムにロバに乗って入城し、自分が救い主であることを示されました。イエスを救い主として慕って生きるならば、神を愛し、信仰を持って神に心から仕え、無償の愛を持って他者に仕えるようにと説いています。
7. 神殿でイエスは私たちの人生の全ては「神を愛することと隣人を愛すること」が何より大切だと教えました。

このシリーズでは、イエスの死と復活を通してイエス・キリストの即位をみていきます。
お祈りします。

## 王の油注ぎ

神の計画 vs. 人の計画

マタイによる福音書 26:1-5 をよみましょう。
「[1] イエスはこれらの言葉をすべて語り終えると、弟子たちに言われた。[2]『あなたがたも知っているとおり、二日後は過越祭である。人の子は、十字架につけられるために引き渡される。』[3] その頃、祭司長たちや民の長老たちは、カイアファと言う大祭司の屋敷の中庭に集まり、[4] イエスをだまして捕らえ、殺そうと相談した。[5] しかし、彼らは、『祭りの間はやめておこう。民衆の中に騒ぎが起こるといけない』と話していた。」

イエスによると、彼は2日後の過越祭の日に十字架にかけられます。
旧約聖書の中で、神を信じる者が、犠牲となる子羊の血を家の入り口の鴨居にふりかけ、死の御使いが、血が注がれた入り口を過ぎ越した時のように、今度はイエスが、神を信じる者が生きていられるように、十字架上で真の犠牲の子羊となるのです。

ユダヤの祭司達は民衆の騒ぎになることを恐れ、イエスを8日後の過越祭の後に殺す計画でした。

神と祭司達とでは、どちらの計画通りに進んだのでしょうか。次のシリーズの中でみていきましょう。

## 油を注がれたイエス・キリスト

マタイによる福音書 26:6-9
「[6] さて、イエスがベタニアで、規定の病を患っているシモンの家におられたとき、[7] 一人の女が、極めて高価な香油の入った石膏の壺を持って近寄り、食事の席に着いておられるイエスの頭に香油を注ぎかけた。[8] 弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。『何のためにこんな無駄遣いをするのか。[9] 高く売って、貧しい人々に施すことができたのに。』」

ヨハネによる福音書によれば、これは棕櫚の日曜日の前日の土曜日の出来事です。ここに登場する女は、マルタの姉妹のマリアであり、300 デナリ、言い換え

れば１年分の収入に匹敵する額の極めて高価な香油をイエスに注いだのです。今日の価格で$30,000、450 万円に値します。また、憤慨してマリアを責めた「弟子」はイスカリオテ・ユダだったのです。
イエスがエルサレムに入城する前日、ベタニヤでの夕飯時、マリアはイエスの頭に極めて高価な香油を注いだのです。弟子達は皆怒り、イスカリオテ・ユダは「なんという無駄遣いをしたのか。なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。」と言って、マリアを責めたてます。

ここで少し考えてみましょう。ユダの言う通り、これは本当にいけないことだったのでしょうか。 450 万円、$30,000 が無駄に流されてしまったのでしょうか。本当は貧しい人々に施されるべきだったのでしょうか。 そうであったかもしれません。

私たちは、自分の持っているもの、例えばお金、能力等を使って、イエスに仕える時、批判を受けることがあります。イエスに受け入れられていても、人から批判を受けることがあります。私は、ある賛美歌を歌うシンガーで、いつも心を込めて神、教会のために奉仕してくれている女性が、「歌が下手だから人前で歌うべきではない」といった批判を受けたことを知っています。

また、何年も前の日曜日に、私は着ていたシャツを批判された経験があります。

それらは全て事実だったかもしれません。香油は非常に高価だった、歌が下手だった、ひどいシャツだった。しかしこれらは罪ではありません。私たちが神に仕える時、神の人々の批判を受けることがあることも事実なのです。

**マタイによる福音書 26:10-13**
**「[10] イエスはこれに気付いて言われた。『なぜ、この人を困らせるのか。私に良いことをしてくれたのだ [11] 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、私はいつも一緒にいるわけではない。[12] この人は私の体に香油を注いで、私を葬る準備をしてくれた。[13] よく言っておく。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。』」**

イエスはマリアがしてくれたことを快く受け入れました。イエスから見ればマリアがとった行動は、実は神の神聖なご計画の一部だったのです。イエスの埋葬の為の準備だったからです。 イエスはマリアを称賛しましたが、明らかにマリア自身も気づかずにしたことだったのです。 なおさら弟子達も、イスカリオテ・ユダも誰もそれが埋葬の準備だったとは知りませんでした。
では、マリアはイエスに「無駄なことをして！」と批判されずにすんでラッキーだったといえるでしょうか？

マリアが同じことをイエスではなく、ペテロにしていたら、イエスは怒ったでしょうか？

いいえ、そんなことはありません。マリアの行動は、美しく、他者への愛を表現するものでした。聖書に罪だと言われていること以外は、マリアのイエスに対する愛の表現は彼女の自由なのです。ですから、批判される理由はありません。マリアの代わりに、イエスはマリアを批判した弟子達を叱りました。

私のオフィスには、鳥が何羽も巣に留まっている木の絵が飾ってあります。その絵の筆使いはとても力強く、色使いもはっきりしています。あらゆるものが青く塗られています。空、鳥、木、葉。そして、その木の中に赤、黄、白のフルーツが散りばめられています。とてもはっきりとした過激な絵なのです。あまりに過激なので、それが何の絵かわからない人もいます。葉は緑、木は茶に塗られていれば、もっと良い絵に仕上がっていたのに、と批判する人がいるかもしれません。しかし、私はそのようなことは気にも留めません。なぜならば、その絵をより良くしようなどとは思っていないからです。私は完璧な絵を求めてはいません。今、飾ってある不完全なままの絵で十分に満足しています。その絵は、娘がまだ小学生だった頃に描いてプレゼントしてくれたものなのです。小学生なりに一生懸命に描いてプレゼントしてくれたものですから、大切に飾っておきたいと思っています。

マリアがイエスに香油を注ごうとした時、イエスはその愛に満ちた行いを感謝して受け入れました。マリアが香油に使ったお金を、他のものに使うべきだった、などとは考えませんでした。香油に使ったお金は、より有意義に使えたのに、などといった批判を受ける

必要もないのです。イエスは、お金の完璧な使い道を考えよう、などとは思ってもいませんでした。

イエスは、マリアのとった行いが、神の国に住む人々にふさわしい行いだと考えました。
マリアは自分が欲しいものを追い求めてはいません。イエスのためにとった行いだったのです。

マリアはこの世の成功を追い求め、人から認められたい、などと考えてはいません。むしろ、人々から非難されたのです。

マリアはお金を頼りに生きていません。むしろお金には疎かった、といえるでしょう。

マリアにとって重要だったのは、神を愛し、他者を愛することだったのです。

それに対し、マリアを批判した弟子達のマリアとは違う部分をみていきます。
弟子達は自己中心的でした―罪ではないけれども自分の思い通りにしたかったのです。弟子達はこの世の成功を追い求め、人から認めてもらいたいと思い、マリアを非難しました。弟子達はお金に対して非常に貪欲でした。その為、弟子達には、さらなる神への愛、マリアへの愛が見受けられませんでした。

私達も気をつけなければ、他者が神にどう仕えているか、教会にどう仕えているか、礼拝での賛美、楽器演奏、聖書の教え、案内係、清掃をすることに対して批判的になってしまいます。
私たちが理解しなければならないのは、神にとって重要なことと、人にとって重要なことが違うということです。欲しいものを手に入れ、成功をおさめ、人から認められるようになり、お金を獲得することが重要なのではありません。神を愛し、他者を愛することが大切なのです。弟子達はそれを理解していませんでした。

**暴かれた心**

マタイによる福音書 26:14-16
「14その時、十二人の一人で、イスカリオテのユダと言う者が、祭司長たちのところへ行き、 15『あの男をあなたがたに引き渡せば、幾らくれますか』と言った。そこで、彼らは銀貨三十枚を支払った。16その時から、ユダはイエスを引き渡そうと、機会をうかがっていた。」

ここでは、一度はイエスに仕えて生きていこうと決心したものの、神の御国の意味を理解できなかった人間の危険性が見受けられます。3年半前に、イエスについて生きていこうと決心した時、行く末、自分がこんな裏切りをイエスに対してするとは夢にも思わなかったでしょう。

しかしここに問題があります。ユダは、イエスが救い主であると信じていたのです。神の民を軍事的、政治的に暴虐的なローマ帝国の支配から解き放し、神の国を作ったのですから。
そしてイエスに強く非難された時、ユダは次のように感じました。
イエスと一緒にいたら、自分の欲しいものは絶対に手に入らないだろう。イエスと一緒にいたら、この世の成功や自分が思い描いた豊かな生活を手に入れることはないだろう。イエスと一緒にいたら、どんなことも成し遂げるに十分なお金を手に入れることはないだろう。

一番の大きな問題は、ユダがイエスの神の国についての教えが理解できていなかったことにあります。ユダは神が何を望んでおられるか、ではなく、自分が欲しいものを追求し続けました。ユダはこの世の成功や人から認めてもらうことを追求し続けました。ユダは神ではなくお金に頼り、お金を追求し続けました。

その為、これらの実現が危険にさらされた時、彼の人生や存在までもが脅威にさらされていると感じたのでした。このように彼はこの世の事柄から自由になることが出来ませんでした。ユダは神を愛し、イエスを愛し、マリアを愛することができなかったのです。残念ながら、イエスや弟子達と3年半、共に生活をしたものの、神の国に入ることがなかったのです。

私たちも、ユダの悲劇のようにならないためには、どう生きればいいのでしょうか。
イエスが私たちの罪のために死んで下さったことを理解すること。
・その罪は何かというと、神の望んでいるものではなく、自分たちの欲求のままに生きること。

・神ではなく、この世の成功や人から認められることを追求して生きること。
・神ではなく、お金を頼り、お金を追求し続けて生きること。

すべきは、悔い改め、全てを神にゆだねて生きること。死から復活したイエスに導いて下さいと祈ること。聖霊によって導かれ、心が新しく生まれ変われますようにと祈る。
自分の欲求やこの世の成功、金銭の追求に代わって、神が望まれることや神の摂理が追求できますように。それによって、心、思い、魂、あらゆる力で神を愛し、他者のことも自分のことのように愛することができますように。

そうすれば、私たちも、神の国で日々心が新しく生まれ変われます。神への愛、他者への愛が日々、増していきます。イエスが救い主として、私たちの人生に生きてきます。今日このことをなしていきましょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

**キリストのことをもっと知りたい**
**洗礼を受けたいという方はこちら**
**メール: cc@tokyobaptist.org**
**もしくは: https://t-b-c.us/cc**

**TBC Life 申込み**
**（毎週届くメールニュース）**
**http://t-b-c.us/tbclife**

**SG レッスンの PDF**
**https://t-b-c.us/sg1842jp**

**★クラス 401**
**人生の使命を発見する**
**5月11日（土）1:30pm – 5:30pm**
**参加条件: クラス 301 まで修了した TBC 教会員**

**★クラス 402**
**キリストの伝え方**
**5月25日（土）1:30pm – 5:30pm**
**参加条件: クラス 401 まで修了した TBC 教会員**

**https://t-b-c.us/classes**

**オンライン献金**
**http://t-b-c.us/give**

**スモールグループ参加申込み**
**http://t-b-c.us/sgsu**